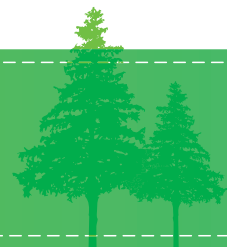


# 資源の有効活用の取り組み



## 基本的な考え方

ミネベアグループの製品に欠かせない金属、プラスチックなどの原材料や、エネルギー源となる石油、天然ガスなどは、その使用量に限りがあります。また、電子機器製品に不可欠なレアアース（希土類元素）は、埋蔵量が少ない上に産出国が限られるため、輸出制限などを受けやすくなっています。

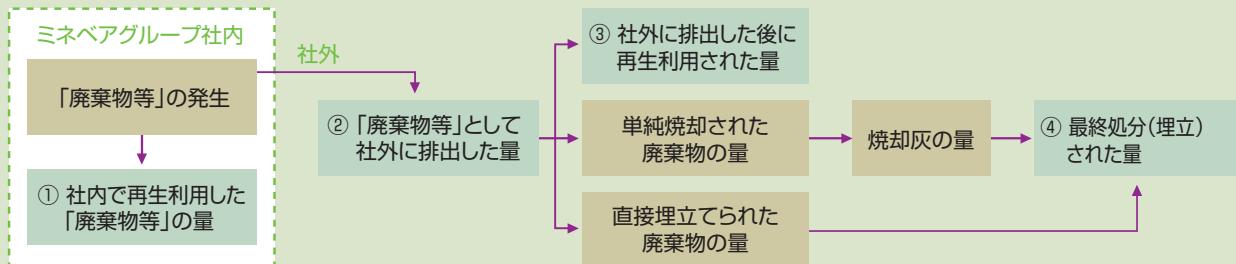
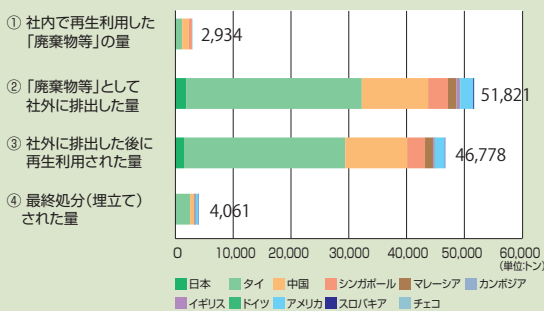
当社グループでは、事業活動の継続のためには資源の有効活用が重要であると考え、経営的な視点から取り組みを行っています。

## 2011年度の取り組み結果

2011年度にミネベアグループ全体で使用された主な原材料は、鋼材:約71,400トン、樹脂:約6,800トンでした。2010年度と比較した場合、およそ8%増加しました。一方、当社グループから社外に排出された後、最終処分（埋立）された廃棄物量は4,061トンと、2010年度とほぼ同量でしたが、目標の4,000トン以下を達成できませんでした。

また、当社グループではタイや中国の量産工場において、工場内で発生した排水を可能な限りリサイクルし、工場外に排出しない「排水ゼロ」工場を目指しています。

### ▶ 廃棄物等処理実績(2011年度実績)



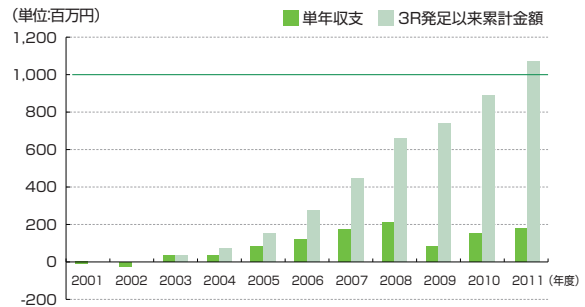
2011年度は新たにアユタヤ工場において排水ゼロシステムが稼働したことにより、当社グループにおける工場放水量を235,000トン減量することができました。

## 事業所における取り組み

### ● 3R活動の累積収益が10億円突破(上海工場)

上海工場では、2003年に3R (リデュース/リユース/リサイクル) 委員会を発足し、産業廃棄物の有効利用と削減に取り組んできました。取り組みを開始した当初は、産業廃棄物の多くを費用をかけ処理していましたが、廃棄物の分別回収に取り組むことで、一部のものは売却が可能になりました。この取り組みにより、活動開始からおよそ9年で廃棄物の資源売却額が累計で10億円を突破しました。

### ▶ 上海工場の3R収支グラフ



## 今後の目標・課題

ミネベアグループは、埋立処分される廃棄物の最終処分量の削減に取り組んでいます。

2012年度の最終処分量は、前年度に引き続き4,000トン以下を目指します。また、現在、埋立処分されている廃棄物の性状調査や市場分析などにも取り組み、今後数年を掛けて大幅な削減を目指します。